

令和7年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人不動園	代表者	河邊 和敏	法人・事業所の特徴	「第二の我が家」を合言葉に、笑顔でゆったり過ごせる事業所を目指している。決められたスケジュールに利用者をはめ込むのではなく、利用者個々々のニーズに応じて通所や訪問、宿泊を柔軟に組み合わせた個別支援を提供している。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 いさなご荘	管理者	松本 章子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	8人	1人	1人	1人	0人	3人	0人	13人

項目	令和7年度の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	令和8年度の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①介護事業所の専門職としての学びを深める為、自己研鑽や事業所内外に於いて学びの機会を定期的に設け、質の向上を目指す。	①定期の職員研修だけでなく、必要時にリアルタイムで学びの機会を設けた。ミーティングや会議の場で職員から積極的な意見が聞かれる様になった。 ②配置転換によりリーダー職が不在になり職員個々のリスクマネジメント能力を高める必要がある。	【委員より】 ・事故や苦情発生時もしっかり受け止めて、再発防止を講じている ・管理者の方針が明確で、職員まで周知しており、職員の方々を見ると様々な場面で努力や成長が伺える。	①学んだ事が実際のケアにどう活かす事が出来ているか定期的に振り返りの機会を設け【成長】が実感できる人材育成を行う ②職員個々のリスクマネジメント能力を高める為に、苦情や事故発生時の対応や個人情報保護、虐待について学びます
B. 事業所のしつらえ・環境	①利用者や職員の安全を確保する為に事業所内並びに周辺的安全衛生巡視を2ヵ月に1回実施。その他避難訓練の実施や個人情報保管方法等の管理について6ヵ月に1回確認をする。 ②事業所の案内看板を設置する。	①安全衛生は定期で実施できた。備品の点検や物品整理も出来た。 ②事業所看板を設置したが、少しわかり難いとの意見を受けた。	【委員より】 ・セキュリティは保たれていると思う。不審者の立ち入り事案もある為、外部からの立ち入りには施錠は必要。利用者が出たい時に施錠し、閉じ込めになっていないなら良いと思う。	①備品、設備の耐震補強について予算を設け順次実施する ②安全衛生や訓練、個人情報や貴重品類の保管等についての定期チェックの継続
C. 事業所と地域のかかわり	①地域の方へ事業所の活動や機能について情報発信する為に、年2回広報誌を発行する。 ②地域の要である民生委員等と会合やサロン活動を通じ交流する。	①これまで発行した物は見やすく内容についても好評であった。事業所間の配置転換後は引継ぎ業務等により発行出来ていない。 ②地域より希望を受けて講師派遣やサロン活動を行い、参加者より直接高評価を得た。既に次年度も依頼を受けている。	【委員より】 ・サロン活動が積極的に行われている。地域の行事でも姿を拝見している。 ・いさなご利用者以外の事でも相談に乗ってもらえ安心出来た。 ・年度途中から配置転換があったこれまで密なコミュニケーションを図ってきたが、配置転換により忙しいかったのだろうが連絡が噛み合わなくなり戸惑った。	①発行した広報誌を事業所の所在地区を中心に回覧版を活用させていただく。広報誌と併せその他事業所の様子等の情報発信を法人ホームページにアップする事で積極的な情報発信を行う。 ②会合やサロン活動の継続 ③希望に応じ見学や食事の場を設ける ④地域行事への参加継続

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<p>①C-②と同様 ②C-②に加え、地域課題やニーズに対し、地域密着型としてどんな活動が必要なのか検証する。</p>	<p>①サロン活動や認知症講座の開催を通じて民生委員の方々の困りごとや地域の課題を少しずつ伺う事が出来た。 ②特に認知症や精神疾患が疑われる様なケースが困難ケースになりやすい。認知症相談窓口の機能として認知症の啓発活動の必要を感じる。</p>	<p>【委員より】 ・サロン活動や認知症に関する学びの機会を各地域へ出向いていただいている。 ・講座やサロンへ参加しました。認知症の方への対応で困る事があったが、教えてもらった事で安心できる事が増えた。</p>	<p>①認知症相談窓口として機能する為に研修参加や、他機関と連携し啓発活動を行うと同時に、職員の認知症対応力を向上させる研修を年2回開催する</p>
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<p>①D-②に対し、委員から積極的な意見を得る様、会議開催手段や進め方の工夫をする。 ②委員や地域の高齢者に事業所見学の機会を設ける。</p>	<p>①感染症の影響により運営推進会議の日程を変更せざるを得ない事が年々増えている。通常業務と併せ感染症発生時には業務が煩雑になる為、委員の方への連絡や次回会議開催のご案内等に遅れが生じてしまった。議題や日程調整、資料の準備について手順や役割分担を見直していきたい。 ②活発なご意見がいただける会議になってきた。お褒めの言葉も厳しいご指摘もしっかり頂ける為有難いと感じる。ご多忙の中ですが、出席率も8割以上を維持出来ている。</p>	<p>【委員より】 ・事業計画や方針、事業の実施状況、事故や苦情の報告と改善の為の取り組み説明など丁寧にされており分かりやすい。 ・地域に根差した事業所になってきた。利用希望の方も一定ある。いさなご荘利用に繋がりたい時が多い。待機者として見学や体験利用をしてもらいたいと思う。 ・いさなご荘内にせつかく地域交流スペースがあるので活用させていただきたいが、地域の高齢者に集まってもらう為には交通手段が無い。</p>	<p>①福祉や介護に関する地域での困り事を聞き、助言や必要に応じた専門機関への連携を行う。希望に応じ認知症啓発の研修やサロン活動を開催する為に日程や内容の調整を行う。 ②年1回事業所見学と食事の機会を設ける。 ③体験利用の実施についてルールを決めて案内する</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>①土砂災害危険区域にある事を十分理解し、マニュアルの整備と訓練を通じ職員への周知徹底を行う。 ②鱒留区の避難訓練へ参加する。</p>	<p>①完成しているBCP(事業継続計画)に則り、机上訓練と併せ災害時の実働訓練も実施し、緊張感を持って取り組めた。今ある計画は事業所の立地や職員の自宅の位置、電話等ネットワークの状況によっては有効で無い為、年1回定期の更新が必要。 ②区の避難訓練へ参加。要配慮者の避難を想定し助言も出来た。</p>	<p>【委員より】 ・事業所の災害対策について意見を述べようにも、実際の訓練へ参加させていただく機会が無いので意見し難いが災害に関するマニュアルは揃っており会議で閲覧できた。実際災害発生した場合はマニュアル通りにいかない。意識を持ってもらえる事や、少しでも命を守る為の初動が取れば良いと思う。</p>	<p>①地域の避難訓練への参加を継続する。 ②災害や感染症まん延を想定したBCP訓練を年2回実施し、職員個々の対応力を向上させる。</p>